

資料:認定単位数変更に伴う更新認定合否シミュレーション

2010年9月15日

認定委員会

認定有効期間が5年間に変更されたのに伴い、業績評価についても2013(平成25)年度の更新認定から5年間で60単位以上となった。現在使用されている単位数表と5年更新認定単位数表において、かなりの業績項目において単位数の調整が行われた。認定単位数表の変更に伴い認定更新条件が厳しくなったのかシミュレーションを下記の条件で行った。

(1)2年更新単位表で30単位以上有ると最近評価された更新認定者26名を無作為に抽出し、シミュレーション対象者として現在使用されている単位数表と5年更新認定単位数表の双方で評価を行い、不合格となる人数を検討した。

(2)2年間の業績であるため、5年間業績に換算するため、各人の5年更新認定単位数表での評価単位数を $5/2=2.5$ 倍し60単位を越えるかで合否判定を行った。ただし、新規に導入した“医学物理士としての業務実績”と“教育実績”は含んでいない。

結果を以下に示す。

単位数の比較

	平均	標準偏差	最大値	最小値
現行2年更新認定単位数表 (2年間実績)	50.2 単位	15.9 単位	84 単位	30 単位
改正5年更新認定単位数表 (2年間実績)	43.8 単位	16.6 単位	76 単位	22 単位
改正5年更新認定単位数表 (5年間換算)	109.5 単位		190 単位	55 単位

26人中24人の申請者は5年更新認定単位数表でも認定単位数(5年間で60単位)以上を取得し、2人は単位が不足した。

	申請者1	申請者2
現行2年更新認定単位数表	39 単位	30 単位
改正5年更新認定単位数表	57.5 単位	55 単位

上記2人は“その他の学術集会・講習会での発表や参加”の単位が全取得単位中のほとんどを占めているが、業務実績や教育実績を申請すれば認定可能と見なすことができ改正に伴う不合格者の増加は認められないと判断される。以上、新規に導入した“医学物理士としての業務実績”と“教育実績”を含まないシミュレーション結果とカテゴリ分類により論文等の単位が必須ではなくなったことで、認定条件は緩和されていると言える。